

試合番号 : 151		試合会場 : パークアリーナ小牧 (小牧市スポーツ公園総合体育館)				観客数 : 2,300	
開始時間 : 12:00		終了時間 : 13:35		試合時間 : 01:35		主審 : 中山 健	副審 : 村中 伸
ウルブドッグス名古屋		通算 5勝 6敗 ポイント : 15	23 第1セット 25		サントリーサンパーズ		通算 8勝 3敗 ポイント : 24
監督コメント	サントリーサンパーズにおめでとうと言いたい。試合の最後は相手と互角に戦えたが、今週末2試合の結果は自分たちの力だと理解しないといけない。来週体育館に戻って、改善できる所は改善して次の試合に臨めるよう、現在のレベルを把握して成長していきます。応援ありがとうございます。	0	16 第2セット 25	27 第3セット 29	3	監督コメント	昨日の敗戦から選手はしっかりと切り替えてプレイをしてくれた。相手の粘りに苦しんだが、チーム全員で最後まで一生懸命プレイした結果だったと思います。本日もたくさんの応援ありがとうございました。
要約レポート	ホームゲームで勝利をあげたい6位ウルブドッグス名古屋と首位を争う4位サントリーサンパーズの一戦はサントリーが勝利した。第1セット、サントリーは序盤にムセルスキーのスパイクとブロックによる3連続得点で試合を優位に進める。WD名古屋は中盤で途中交代した内山のトスワークと小川のレシーブがチームを鼓舞し勢いづけたが、17-17の場面でサントリーリベロの鶴田がコート外のボールを必死に追いかけて攻撃へ繋ぎ、それに応えるようにムセルスキーが豪快な一発を決めサントリーも負けじとくらいつく。試合が動いたのは21-22、ムセルスキーがサーブとスパイクで連続得点を奪い、このセットをものにした。第2セット、サントリー藤原がブロック2本、スパイク1本を連続で決め6-2と序盤からWD名古屋を引き離す。サントリーは4連続得点の場面で2回あり、WD名古屋と点差を更に引き離した。WD名古屋もリベロ古賀の粘りのレシーブと山田のスパイクでくらいつく。メンバーチェンジで流れを変えようと試みるがサントリーはブロックアウトで得点を積み重ね、セット連取する。第3セット、序盤は打ち合いが続く。WD名古屋は14-19から椿山のダイナミックなサーブとスパイクで17-19、高梨が緩急をつけた攻撃を仕掛け要所で確実に得点を重ねて最大5点差あった点差をつめ、23-22でサントリーを追い抜いた。23-23からはサーブの打ち合いとなるが、27-28で途中交代したサントリー山本がリブサーバーとして相手を崩しサントリーがこのセットを勝ち取った。WD名古屋は随所で光るプレーもあったがホームゲームで勝利をあげることができなかった。両チームとも気迫のあるプレーで、会場が沸く白熱の試合だった。						
試合番号 : 152		試合会場 : パークアリーナ小牧 (小牧市スポーツ公園総合体育館)				観客数 : 2,150	
開始時間 : 14:30		終了時間 : 16:39		試合時間 : 02:09		主審 : 城 智人	副審 : 服部 篤史
パナソニックパンサーズ		通算 10勝 1敗 ポイント : 30	23 第1セット 25		堺プレイザーズ		通算 4勝 7敗 ポイント : 14
監督コメント	第1セット、二段トスや繋ぎの部分でのミスが目立ち、リズムを作る事が難しかった。第2・3セットはサーブで押し、ブロック・ディフェンスが機能することができた。第4セット、相手のサーブに押され、最後まで苦しんだが、選手一人一人が声をしっかりと出し、最後までよく集中して戦い抜いてくれた。来週も良い集中力を持って戦いたい。本日もたくさんのご声援ありがとうございます。	3	25 第2セット 16	25 第3セット 15	1	監督コメント	今日の相手はブロック・ディグがとても良く、非常に良いバレーをしていました。安定して力を発揮し、ミスの少ないバレーでした。ただ、今週の我々は2試合ともとても良いゲームができていたように思います。もちろんチャンピオンを目指していくにはまだまだ必要なことは多く、より良くなっていくことが重要です。今週も熱い応援ありがとうございます。
要約レポート	昨日に続き連勝を取りたい両チームの争いは、激しいラリーの応酬が繰り返され、幾度となく観客を魅了する好ゲームとなった。第1セットはトレスの強打を軸に攻撃を展開した堺プレイザーズが16-17から3連続得点で点差を広げ先取った。堺は相手の攻撃をブロックで緩め、レシーブから切り返して攻撃を決めるパターンが何度も見られた。また、このセットは両チーム合わせて4回のチャレンジが要求される。際どい争い合いであった。第2セットはパナソニックパンサーズが序盤からブレイクを繰り返して、大きくリードして奪い返した。特にクビアクが大車輪の活躍を見せた。相手の強打をレシーブする技術、味方のレシーブを直接強打する意外性、また、コート外からの二段トスでも全力で打ち切る勇気、相手のエースを止めたブロックなど、見応えのあるプレーでチームを牽引した。パナソニックは第3セットも、久原の2本のサービスエースを含む7連続得点で前半に11-5とリードすると、そのままの流れでセットを連取した。第4セットは両チームの激しいラリーが繰り返され、デュースに入った。結局、パナソニックが30-31から清水とクビアクの強打で逆転すると、最後はクビアクがネット上の押し合いに勝ってゲームを決めた。なお、この場面で相手を前後に揺さぶるサーブを放った深津が陰の立役者であった。						
試合番号 : 153		試合会場 : シンヨーオークアリーナ (呉市総合体育館)				観客数 : 1,800	
開始時間 : 11:30		終了時間 : 13:16		試合時間 : 01:46		主審 : グレグ ルーオー	副審 : 富田 博一
ジェイテクトSTINGS		通算 10勝 1敗 ポイント : 29	21 第1セット 25		FC東京		通算 1勝 10敗 ポイント : 3
監督コメント	昨日に続いて厳しい内容の試合となりましたが、全員が耐えきり、勝利することができました。また、来週に向けて継続していくこと、修正、改善することを明確にして準備してまいります。呉大会の2日間、たくさんの応援ありがとうございます。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。	3	25 第2セット 18	25 第3セット 20	1	監督コメント	今日は初スターティングメンバーである野瀬、佐藤がチームに大きなエネルギーを与えてくれた。カジースキ、西田選手のサーブに、非常に苦しめられたが、次週からは、この困難をしっかりと乗り越えられるように準備をします。来週のホームゲームも引き続き応援のほど、よろしくお願いたします。
要約レポート	昨日、接戦をものにしたジェイテクトSTINGSと勝って巻き返しをはかりたいFC東京の一戦。第1セット、FC東京は佐藤、プレモビッチの攻撃や井上のサービスエースでリードする。一方で、ジェイテクトは西田、饒の攻撃で追いかける展開。ジェイテクトは粘りのレシーブが出るものの終盤にミスが目立ち、FC東京がセットを取った。第2セット、FC東京は佐藤、迫田の攻撃に対し、ジェイテクトは饒のクイックに西田、カジースキのパワフルな攻撃で対抗し接戦となったが、カジースキのサービスエースで一気に流れをつかんだジェイテクトが第2、第3セットを連取した。第4セット、FC東京は佐藤やプレモビッチの攻撃で点差を広げようとするが、ジェイテクトも西田や饒の攻撃で追いかける。セット終盤、ジェイテクトの藤中がFC東京のプレモビッチをブロックしデュースに。最後はジェイテクトの西田が強烈なサービスエースを決め、粘るFC東京を封じ込めた。苦しい試合であったが最後まで安定したレシーブが崩れず勝利したジェイテクトに対し、FC東京は痛い星を落とした。						
試合番号 : 154		試合会場 : シンヨーオークアリーナ (呉市総合体育館)				観客数 : 2,300	
開始時間 : 14:00		終了時間 : 16:21		試合時間 : 02:21		主審 : 山本 和良	副審 : 國頭 亮太
JTサンダーズ広島		通算 9勝 2敗 ポイント : 25	19 第1セット 25		東レアローズ		通算 4勝 7敗 ポイント : 12
監督コメント	非常にタフな試合を勝利した事に対して選手たちを誇りに思う。東しの素晴らしいプレーにとても苦しめられたが、追い詰められた状況から逆転し勝ち切ることができた。ファンの皆様、ご声援ありがとうございます。	3	25 第2セット 16	28 第3セット 30	2	監督コメント	今日の試合はJT広島島のホームゲームであり、1レグでは完敗している相手だったので、チーム全体で覚悟を持って臨みました。しかし、昨日同様フルセットで負けてしまいました。チャンスボールや得点にならないボールの処理の精度が勝敗を分けたと思います。修正して来週に向けて、しっかりと準備したいと思います。本日もたくさんの応援ありがとうございます。
要約レポート	ホームゲームでの連勝を伸ばしたいJTサンダーズ広島と上位進出のためには負けられない東レアローズの一戦。第1セット、エドガーや小野寺の攻撃が決まり、まずJT広島がリード。しかし中盤、李のサービスエースで流れをつかんだ東しが9連続得点で逆転すると、星野やルジェの攻撃でそのままリードを保ち、東しが先取。一進一退の攻防からエドガーの攻撃や小野寺のサービスエースでJT広島が抜け出すと、安永のブロックや山本の攻撃で得点を重ねたJT広島がセットを取り返す。第2セットも白熱した接戦となる。終盤、陳のブロックやブロックなどでJT広島が3点差をつけて先にセットポイントを取ったが、東しは粘り強いレシーブからルジェの攻撃や李のサーブにより反撃してデュースに持ち込み、勢いに乗った東しがこのセットを取る。第3セットはJT広島がペース、エドガーや陳の攻撃、小野寺のブロックで得点を重ねたJT広島がこのセットを取り勝負はフルセットへ。最終セット、両チームの意地がぶつかり合い、気迫あふれるラリーの応酬となる。終盤、山本の攻撃とブロックで抜け出したJT広島がそのまま逃げ切り熱戦に終止符を打った。						